

対象年度	平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名	フィルムコミッション推進事業						予算事業名	フィルムコミッション推進事業費
予 算 科 目	会計	01	款 07	項 01	目 05	事業 1102	要求区分 経常経費	根拠法令
総合計画体系	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						事業の区分	主要事業
	3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観							重点事業
	③フィルムコミッションの推進						担当課係等	商工観光課
	1フィルムコミッション推進							観光係
事業期間	継続 (平成18年度～ 年度)							
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】						【事業開始のきっかけや他市の状況など】		
映像作品のロケ地として本市が採用されることにより、撮影地に発生する一時的な経済効果を生み出すとともに、市の知名度向上を含めた観光資源として活用することによる二次的な経済効果、さらには市民の郷土愛の向上に寄与する。						H10年前後より各地でFC事業が取り組まれ始まり県内では常総市が早期に開始。本市でもH14年に同事業を開始している。H28年4月現在の「いばらきFC等協議会」には30市町村が加盟。		
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】						【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】		
映像制作事業者からの依頼内容を把握し、適切なロケ地の紹介を迅速に行う。 また、作品内容が本市の利益(イメージアップや経済効果など)につながるか否かを勘案し、誘致の是非を判断する。 また、同事業者及びロケ地との事前調整、撮影時における調整を適切に行うことにより、安全かつスムーズな撮影を支援する。						一般市民及び映像制作会社		
【事業をとりまく環境の変化】								
昨今ではFC事業に取り組む市町村が増加しており、誘致が困難になって来ている。特に本市は山・海・川などの自然が少ないことから建物と取材的要素の強い番組(結城紬関連)の実績に偏りがちとなっている。								
【平成31年度 事業内容】			【平成32年度 事業内容】			【平成33年度 事業内容】		
映像制作事業者からの問い合わせに対して初動時間を短縮し、ロケ地誘致を実施する。			映像制作事業者からの問い合わせに対して初動時間を短縮し、ロケ地誘致を実施する。			映像制作事業者からの問い合わせに対して初動時間を短縮し、ロケ地誘致を実施する。		

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	23	20			
歳入計(千円)		23	20			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	11 需用費	23	20			
歳出計(千円)(A)		23	20			
伸び率(%)			-13.04			
備考	総合計画107ページ 予算書129ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	活動件数	件	目標	30.00	30.00	30.00
	⌘地照会に対し、⌘地推薦など事務手続きを実施した件数(撮影地該当無しなどの回答のみの案件は除く)		実績	16.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	誘致件数	件	目標	12.00	12.00	12.00
	⌘地を推薦し、実際に撮影が行われた件数（⌘地が既に決定していた案件のうち撮影協力をを行った案件を含む）		実績	8.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	特にテレビ番組における宣伝効果は高く、低予算で経済効果を生み出す可能性が高い事業であるため、取り組むメリットはある。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	事業開始より約15年が経過し、徐々にFC事業も定着して来たため、活動を希望する市民団体や観光協会、TMOゆききなどへの移管も選択肢にはなると考える。しかしながら実施体制や公平な調整を鑑みた場合、当面は現況のままが妥当である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	祭事や日常業務などがあるため、人的に対応できないこともある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	現況の支援が可能な際に支援するという形であれば高効率であろうと思われる。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	一次的な経済効果は別に観光誘客に伴う二次的な経済効果や知名度向上などを鑑みた場合公平である。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	年間を通じて確実に対応できる体制が確保できれば成果向上が期待できる。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	照会内容に合致した⌘地が必ずしも推薦できるものでもなく、100%人的に対応できる体制でないことから、いまひとつ「ゆききFC」の知名度が上がらない理由であると考ええる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
低予算で結城市の知名度向上と一時的経済効果を同時に期待できる本事業の有効性は高い。また、撮影地の観光資源化による二次的経済効果も図れることから、発展性のある事業と考える。 しかしながら、現在の手段では夏から秋の繁忙期（イベントシーズン）の人的対応が難しいため、年間を通じて確実に対応が出来ない。また、撮影の内容によっては実施件数に応じて必ずしも本市の知名度向上が図れるものではないため、二次的経済効果に繋がらない場合もある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
繁忙期は人的対応が難しく、撮影帯同が出来ない場合があるため、課だけでなく「シティプロモーション事業」の一環として全庁的に取り組めるような仕組みづくりに発展させる。 ※過去に有志を募って対応した実績あり 一方で照会に対する回答という受け身ではなく、ワークショップや広告代理店などに対して、本市の⌘地一覧などを売り込んでいく。 ※過去に事業計画として計上した経緯あり			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） ロケの誘致を積極的に行なう事で、地域経済の活性化と市民のアイデンティティの醸成、また観光誘客にを図るため継続して実施する。 。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。